

B-7 皮脂主成分の洗浄性

愛知教育大	平尾	あや
金城学院短大	○山田	寿子
	田尻	寧子
愛知県工業指導所	加藤	陽一

1. 肌着に付着した皮脂よごれの洗浄性を、定量的に追求する新たな試みとして、主としてガスクロマトグラフィーによるよごれ成分測定法の適用性をしらべた。本報では、皮脂の主成分と考えられるトリグリセライド中の、トリステアリン・トリパルミチン・トリオレインの3種について、その洗浄性を検討した。

2. 3種のトリグリセライドの人工汚染布を、木綿メリヤスを用いて作製、Na-ABSで洗浄した。測定法はガスクロマトグラフィーによったが、単子分膜レンズ法測定も行なって、測定値を検討した。

3. 洗浄効率、トリステアリン・トリパルミチンの2種共に、約80%を示した。しかしトリオレインの場合は、試薬に不純物混入のため、ガスクロマトグラフィーでは、検量線を求める段階で困難を来し、洗浄効率値を求めることはできなかった。単分子膜レンズ法では、約40%の洗浄効率値を示し、上記2種に比べて、きわめて低い状態であった。